# 入学者受入れの方針
# （アドミッション・ポリシー）

令和８年(2026 年)５月１日現在

## 入学者選抜の基本方針

山口県立大学の教育理念及び各学部学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、山口県立大学の教育を受けるにふさわしい能力・適性などを備えた入学者を受け入れるために、学力の３要素を多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

一般選抜（前期日程、後期日程）では、高等学校で履修した教科の基礎学力を大学入学共通テストで評価するとともに、本学での学修に必要とされる知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度・協働性などを幅広く測る小論文、面接などの個別学力検査を行い、総合的に評価します。

学校推薦型選抜の県内高校枠では、出願書類、小論文、総合問題、面接を用いて基礎学力や各学部学科が求める知識・技能を測るとともに、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度・協働性などを総合的に評価します。地域貢献人材発掘枠では、県内高校枠の選抜方法に加えて、活動報告書を用いて学校の内外で意欲的に取り組んだ活動等の過程、成果及び展望を評価し、この入試区分の趣旨に適合した人材を発掘します。

総合型選抜では、自己推薦書、講義理解力試験、個人プレゼンテーション、面接を用いて基礎学力や各学部学科が求める知識・技能を測るとともに、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度・協働性などを総合的に評価します。

外国人留学生選抜では、出願書類、小論文、面接を用いて、本学での学修に必要な日本語運用能力と国際文化学部の各学科が求める知識・技能を測るとともに、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度・協働性などを総合的に評価します。

## 各学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

### 国際文化学部国際文化学科

【求める学生像】

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、国内外の多様な文化や価値観について学ぶための基礎的な知識や理解力と語学力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

国内外における多様な文化や価値観について自分の考え・意見をまとめ、論理的に分かりやすく伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考えを持つ人々と信頼関係を構築し、地域の国際化や多文化共生に積極的に挑戦しようとする意欲がある。

【高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと】

国際文化学科では、地域の国際化や多文化共生社会の実現に貢献できる人材の育成を目標とした教育を行っています。そのため、高等学校段階までのすべての教科の基礎的な知識・技能と積極的に学ぼうとする態度が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」：基礎的な文章理解力、表現力、思考力、コミュニケーション能力
- ▶「外国語（英語）」：基礎的な文章理解力、表現力、思考力、コミュニケーション能力
- ▶「地理歴史・公民」及び「理科」：高等学校教育課程修了にふさわしい基礎的な学力
- ▶「数学」及び「情報」：高等学校教育課程修了にふさわしい基礎的な学力とその学力を地域のデジタル化推進のために主体的に活用しようとする姿勢
- ▶ その他、「芸術」、「家庭」、「保健体育」など、あらゆる分野にわたって基礎的・常識的な知識と関心を持ち、新しい課題に対して積極的に取り組もうとする態度を備えていることが望まれます。

【入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表】

| 入試種別 | | 総合型選抜 | | | 学校推薦型選抜 | | | | | | | 一般選抜 | | | | | 外国人留学生選抜 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 県内高校枠 | | | 地域貢献人材発掘枠 | | | | 前期日程 | | | 後期日程 | | | | |
| 選抜方法 | | 一次選抜 | 二次選抜 | | 小論文 | 面接 | 調査書 | 小論文 | 面接 | 調査書 | 活動報告書 | 大学入学共通ﾃｽﾄ | 小論文 | 面接 | 大学入学共通ﾃｽﾄ | 面接 | 日本留学試験 | 小論文 | 面接 |
| | | 自己推薦書 | 講義理解力試験 | 面接 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 素点 | | 100 | 200 | 100 | 150 | 100 | 50 | 150 | 100 | 50 | 100 | 700 | 200 | 100 | 700 | 200 | 総合的に評価する | | |
| 評価の比重(*1) | | 100 | 67 | 33 | 50 | 33 | 17 | 38 | 25 | 13 | 25 | 70 | 20 | 10 | 78 | 22 | | | |
| 評価の観点 | 《知識・技能》 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 《思考力・判断力・表現力》 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ |

(*1) 各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）。小数点以下を四捨五入しており、合計が100にならない場合がある。

## 国際文化学部文化創造学科

【求める学生像】

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、地域文化の探究と創造について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

ことばや絵・デザインなどの情報を駆使して、日本文化や地域文化の価値について、自らの思考や判断を伝え表現することができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考えを持つ人々と交流し、地域文化の活性化に貢献しようとする意欲がある。

【高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと】

文化創造学科では、日本文化や地域文化への深い理解を持ち、地域社会のデジタル化の推進や新たな地域をデザインする力をもって地域文化の活性化に貢献できる人材の育成を目標としています。そのため、高等学校段階までの幅広い領域の学力が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

►「国語」：あらゆる科目の基礎として必要な、読解力、論理的な思考力、表現力及びコミュニケーション能力の他、日本文化や地域文化を学ぶうえでの基礎的な知識や技術
►「外国語（英語）」：文化に関することがらを普遍的に考えるために必要な外国語能力と読解力、及び外国語で自らの考えを表明する表現力とコミュニケーション能力
►「地理歴史・公民」：将来、地域社会や世界において良識ある人物として活躍できるための知識・探究力、及び問題解決に主体的に取り組む姿勢を取るために必要な能力
►「数学」及び「情報」：基本的な概念や原理・法則をよく理解したうえでの知識と計算力、論理的思考方法及びデータを理解し活用する基本的なスキル並びに地域のデジタル化推進に取り組む姿勢を取るために必要な能力
►「理科」：基礎的な知識、及び様々な自然現象について科学的な観点から探求しようとする態度
► その他、「芸術」など、あらゆる分野にわたって基礎的・常識的な知識と関心、新しい課題に対する積極性や地域文化の活性化に取り組む姿勢を取るために必要な能力を備えていることが望まれます。

【入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表】

| 入試種別 | | 総合型選抜 | | | 学校推薦型選抜 | | | | | | | 一般選抜 | | | | | 外国人留学生選抜 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 県内高校枠 | | | 地域貢献人材発掘枠 | | | | 前期日程 | | | 後期日程 | | | | |
| 選抜方法 | | 一次選抜 | 二次選抜 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 自己推薦書 | 個人プレゼンテーション | 面接 | 小論文 | 面接 | 調査書 | 小論文 | 面接 | 調査書 | 活動報告書によるプレゼンテーション | 大学入学共通ﾃｽﾄ | 小論文 | 面接 | 大学入学共通ﾃｽﾄ | 面接 | 日本留学試験 | 小論文 | 面接 |
| 素点 | | 100 | 200 | 100 | 200 | 100 | 50 | 200 | 100 | 20 | 80 | 700 | 150 | 50 | 700 | 200 | 総合的に評価する | | |
| 評価の比重(*1) | | 100 | 67 | 33 | 57 | 29 | 14 | 50 | 25 | 5 | 20 | 78 | 17 | 6 | 78 | 22 | | | |
| 評価の観点 | 《知識・技能》 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 《思考力・判断力・表現力》 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ |

(*1) 各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）。小数点以下を四捨五入しており、合計が 100 にならない場合がある。

## 国際文化学部情報社会学科

【求める学生像】

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、情報技術を用いた課題解決について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

課題解決のために収集した情報を解釈し、自分の考え・意見をまとめ、分かりやすく伝え表現することができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考えを持つ人々を受容し、情報技術を活用して地域が抱える課題の解決を行おうとする意欲がある。

【高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと】

この世界はたくさんの情報から成っています。しかし、情報は、それを見つける力を持たなければ手にすることはできません。情報社会学科では、この「情報を見つける力」を獲得し、さまざまなところから情報を取得し活用することを目指します。そして情報の活用により人々をつなぎ、世界を良くする人材を育成します。そのためには、高等学校段階までの幅広い領域の学力が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」：あらゆる科目の基礎として必要な、読解力及び解釈力、また論理的な思考力・表現力
- ▶「外国語（英語）」：外国語で書かれた文章の読解力や解釈力、外国語で自らの考えを表明する表現力
- ▶「地理歴史・公民」：将来、地域社会や世界において良識ある人物として活躍できるための知識・探究力及び問題解決に必要な能力
- ▶「数学」及び「情報」：数式やプログラム等によって世界が記述できるという考え方及び基本的な概念や原理・法則の理解
- ▶「理科」：科学的な観点・思考及び各領域における基本的な知識や法則
- ▶ その他、ここに掲げていない分野（「芸術」や「保健体育」など）や課外活動等にも積極的に取り組んでおくことが望まれます。

【入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表】

| 入試種別 | | 総合型選抜 | | | 学校推薦型選抜 | | | | | | | 一般選抜 | | | | | 外国人留学生選抜 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 県内高校枠 | | | 地域貢献人材発掘枠 | | | | 前期日程 | | | 後期日程 | | | | |
| 選抜方法 | | 一次選抜 | 二次選抜 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 自己推薦書 | 講義理解力試験 | 面接 | 小論文 | 面接 | 調査書 | 小論文 | 面接 | 調査書 | 活動報告書 | 大学入学共通ﾃｽﾄ | 小論文 | 面接 | 大学入学共通ﾃｽﾄ | 面接 | 日本留学試験 | 小論文 | 面接 |
| 素点 | | 100 | 200 | 100 | 150 | 100 | 50 | 160 | 100 | 60 | 80 | 700 | 150 | 50 | 700 | 200 | 総合的に評価する | | |
| 評価の比重(*1) | | 100 | 67 | 33 | 50 | 33 | 17 | 40 | 25 | 15 | 20 | 78 | 17 | 6 | 78 | 22 | | | |
| 評価の観点 | 《知識・技能》 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 《思考力・判断力・表現力》 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | | ○ |

(*1) 各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）。小数点以下を四捨五入しており、合計が100にならない場合がある。

## 社会福祉学部社会福祉学科

【求める学生像】

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、社会福祉の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

誰もが幸せに暮らせる社会の実現について他者とともに語らい、自分の意見をまとめて伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

人や社会に関心があり、他者を理解し共感しながら福祉社会の実現のために貢献しようとする意欲がある。

【高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと】

社会福祉学科では、社会福祉の理論や実践を学ぶために、高等学校段階の教育課程を幅広く修得し、国語・英語の基礎能力を基盤としつつ、社会への関心を強く持ち、社会における課題を解決するための基礎的な能力を身に付けておくことが望まれます。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

▶「国語」：基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力・思考力
▶「英語」：基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力
▶「地理歴史・公民」、「数学」、「情報」及び「理科」：高等学校教育課程修了にふさわしい学力
▶「福祉*」：社会福祉の基礎的な知識　＊福祉科や総合学科など、「社会福祉基礎」等を学ぶ教育課程がある高等学校等
▶ その他、探究的な見方・考え方を身に付け、課題解決を行うための基礎的な能力を備えていることが望まれます。

【入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表】

| 入試種別 | | 総合型選抜 | | | 学校推薦型選抜 | | | | 一般選抜 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 県内高校枠 | | 地域貢献人材発掘枠 | | 前期日程 | | 後期日程 | |
| 選抜方法 | | 一次選抜 | 二次選抜 | | | | | | | | | |
| | | 自己推薦書 | 個人プレゼンテーション | 面接 | 面接 | 調査書 | 面接 | 活動報告書 | 大学入学共通テスト | 面接 | 大学入学共通テスト | 面接 |
| 素点 | | 100 | 100 | 200 | 200 | 50 | 200 | 100 | 600 | 500 | 600 | 500 |
| 評価の比重(*1) | | 100 | 33 | 67 | 80 | 20 | 67 | 33 | 55 | 45 | 55 | 45 |
| 評価の観点 | 《知識・技能》 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 《思考力・判断力・表現力》 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ |

(*1) 各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）。小数点以下を四捨五入しており、合計が100にならない場合がある。

## 看護栄養学部看護学科

【求める学生像】

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、看護の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

人をとりまく様々な現象に自ら疑問を持ち、事実をもとに自分の意見をまとめて伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

人や看護に関心があり、責任感や協調性を持って保健医療福祉のために貢献しようとする意欲がある。

【高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと】

看護学科では、社会の変化に対応し、地域のあらゆる人々の健康の維持・増進と生活の質の向上を推進するために、幅広い分野の知識と技術を習得し、看護を実践する能力や多職種協働のできる能力を培います。そのために、高等学校段階での教育課程を幅広く習得し、大学での学びの基礎となる基礎学力を身に付けておくことが望まれます。特に、教科別に身に

付けてほしいことを次に掲げます。

▶「国語」及び「外国語（英語）」：文意を正確に読み取る読解力、論理的思考力、自らの考えを表現する力、多様な人々とコミュニケーションをとるための能力

▶「地理歴史・公民」：物事を社会的視点から理解する能力

▶「数学」及び「情報」：数学の基本的な概念や計算の基礎、論理的思考力、データサイエンスを学ぶための基本的なコンピュータリテラシーやデータの取扱いの基礎的能力

▶「理科」：生命現象を理解するうえで必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識と科学的思考力と探求力

▶その他、特別活動や課外活動を通じて培った積極性や責任感、主体性、協調性を備えていることが望まれます。

【入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表】

| 入試種別 | | 総合型選抜 | | | 学校推薦型選抜 | | | | | | 一般選抜 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 県内高校枠 | | | 地域貢献人材発掘枠 | | | 前期日程 | | 後期日程 | |
| 選抜方法 | | 一次選抜 | 二次選抜 | | 総合問題 | 面接 | 調査書 | 総合問題 | 面接 | 活動報告書 | 大学入学共通テスト | 面接 | 大学入学共通テスト | 面接 |
| | | 自己推薦書 | 個人プレゼンテーション | 面接 | | | | | | | | | | |
| 素点 | | 100 | 200 | 100 | 250 | 200 | 50 | 250 | 100 | 100 | 700 | 200 | 600 | 300 |
| 評価の比重(*1) | | 100 | 67 | 33 | 50 | 40 | 10 | 56 | 22 | 22 | 78 | 22 | 67 | 33 |
| 評価の観点 | 《知識・技能》 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 《思考力・判断力・表現力》 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |

(*1) 各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）。小数点以下を四捨五入しており、合計が100にならない場合がある。

## 看護栄養学部栄養学科

【求める学生像】

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識・技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、栄養管理の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

社会における様々な課題について多面的に考察し、自分の意見を論理的に分かりやすく伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

食と健康に関心があり、責任感や協調性を持って人々の健康福祉のために貢献しようとする意欲がある。

【高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと】

栄養学科では、少子・超高齢社会において、地域のあらゆる人々の健康と生活の質の向上を積極的に推進するために、対人援助力、課題解決思考力及び多職種協働力を備えた質の高い専門性を有する管理栄養士の育成を目的としています。このような質の高い管理栄養士となるために、必要とされる幅広い基礎的な能力を高等学校段階の教育課程で身に付けておく

ことが望まれます。そのため、特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

▶「国語」及び「外国語（英語）」：文意を正確に読み取る読解力、論理的思考力、自らの考えを表現する力及び多様な人々とコミュニケーションをとるための能力

▶「地理歴史・公民」：物事を社会的視点から理解する能力

▶「数学」及び「情報」：数学の基本的な概念や計算の基礎、論理的思考力、データサイエンスを学ぶための基本的なコンピュータリテラシーやデータの取扱いの基礎的能力

▶「理科」：生命現象や食品の特性を理解するうえで必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識と科学的思考力と探求力

▶ その他、特別活動や課外活動を通じて培った積極性や責任感、主体性、協調性を備えていることが望まれます。

【入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表】

| 入試種別 | | 総合型選抜 | | | 学校推薦型選抜 | | | | 一般選抜 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 県内高校枠 | | 地域貢献人材発掘枠 | | 前期日程 | | 後期日程 | |
| 選抜方法 | | 一次選抜 | 二次選抜 | | 面接 | 調査書 | 面接 | 活動報告書 | 大学入学共通テスト | 面接 | 大学入学共通テスト | 面接 |
| | | 自己推薦書 | 個人プレゼンテーション | 面接 | | | | | | | | |
| 素点 | | 100 | 200 | 100 | 200 | 100 | 200 | 100 | 700 | 100 | 800 | 200 |
| 評価の比重(*1) | | 100 | 67 | 33 | 67 | 33 | 67 | 33 | 88 | 13 | 80 | 20 |
| 評価の観点 | 《知識・技能》 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | |
| | 《思考力・判断力・表現力》 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ |

(*1) 各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）。小数点以下を四捨五入しており、合計が100にならない場合がある。

## 【大学院】

### 国際文化学研究科国際文化学専攻（修士課程）

【知識と理解】

国際文化学に関する学術領域を学ぶために必要な基礎学力を備え、研究に必要な日本語あるいは英語能力を有する人

【思考力と表現力】

国際文化学に関する研究に取り組むために必要な思考力と表現力を備え、基本分野の文献等を批判的にとらえた上で研究計画を立案し遂行できる人

【意欲と態度】

高度専門職業人・地域社会のリーダーとして、意欲と熱意をもって地域に貢献するため、課題解決にむけて多様な人々と連携できる人

### 健康福祉学研究科健康福祉学専攻（博士前期課程）

【知識と理解】

健康・福祉に関する学術領域を学ぶために必要な基礎学力を備え、自らの研究テーマの背景及び意義に関連した基礎的知識を有している人

【思考力と表現力】

健康・福祉に関する研究に取組むために必要な思考力と表現力を備え、自らの研究テーマの背景及び意義について概ね説明できる人

【意欲と態度】

高度専門職業人として、意欲と熱意をもって地域に貢献しようとする人

### 健康福祉学研究科健康福祉学専攻（博士後期課程）

【知識と技能】

健康・福祉に関する諸課題に取り組むために必要な基礎的な知識と英文読解力を含む研究力を備え、自らの研究テーマの背景及び意義に関連した基礎的知識を活用できる人

【論理的思考力と表現力】

健康・福祉に関する研究に取り組むために必要な論理的思考力、判断力と表現力を備えており、自らの研究テーマの背景及び意義について論理的に説明できる人

【意欲と態度】

研究者・大学教員等として、意欲と熱意をもって地域に貢献しようとする人

## 【別　科】

### 別科助産専攻

【知識・技能】

助産の基礎を学ぶために必要な看護学の知識と技術を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

看護職としての論理的思考力、問題解決力、表現力を身につけている。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

他者の多様な価値観を尊重し、自らの行動に責任を持ち、協働して物事に取り組む力を有している。助産に対する課題に関心があり、山口県の母子保健の向上に貢献したいという意欲がある。

【入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表】

| 入試種別 | | 特別選抜 | | 一般選抜 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 選抜方法 | | 小論文 | 面接 | 専門科目 | 小論文 | 面接 |
| 素点 | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 評価の比重(%) ※ | | 50 | 50 | 33 | 33 | 33 |
| 評価の観点 | 〈知識・技能〉 | ○ | | ○ | ○ | |
| | 〈思考力・判断力・表現力〉 | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | 〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉 | | ○ | | | ○ |

※各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（%）。小数点以下を四捨五入しており、合計が100にならない場合がある。